

第88回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について（有珠山部分の抜粋）

2000年11月以降の全国の火山活動状況は以下のとおりです。

三宅島では引き続き多量の火山ガスの噴出を伴う噴煙活動が継続しています。別紙のとおり統一見解を発表しました。

有珠山では火山活動は次第に低下していますが、ごく小規模な水蒸気爆発が継続しています。

北海道駒ヶ岳では2000年11月に小規模な噴火が発生しました。

岩手山では地震活動、地殻変動等に大きな変化はないものの、噴気活動は活発な状態が続いています。

磐梯山では、山頂直下を震源とする地震や浅い低周波地震が回数は減少したものの引き続き発生しています。2001年1月30日には比較的大きな振幅の火山性微動が発生しました。

これらの火山では、今後も火山活動に注意が必要です。

1. 北海道地方

（中略）

4) 有珠山

- ・地震回数は1日当たり数回以下で推移し、地震活動は、2000年9月以降引き続き低いレベルを保っています。ほぼ、昨年の噴火以前の活動レベルに戻っているとみられます。
- ・一連の噴火活動で見られた北西山麓を中心とする地盤の隆起は徐々に鈍化し、2000年7月末にはほぼ停止し、沈降に転じました。その沈降傾向も徐々に鈍化しながらも、現在も続いています。
- ・金比羅山火口群では小規模な水蒸気爆発が継続し、火山灰混じりの噴煙噴出のほか、炸裂型噴火に伴う噴石等の放出を断続的に繰り返しました。しかし、噴火活動に伴う火山性微動及び空振は、2000年12月以降徐々に振幅が低下しており、噴石等が火口外に放出される頻度は少なくなっています。
- ・なお、2000年11月下旬に金比羅山火口群（K-B火口）で、噴煙活動が停止気味になり、この間に土砂噴出を伴うやや強い爆発が2回発生しました。その後、噴煙活動は以前の様な連続噴出の状態に戻っています。
- ・西山西麓火口群では弱い噴煙活動と地熱活動が継続しています。
- ・以上のように、深部からのマグマの供給は停止していると考えられますが、火口から500m程度の範囲では、噴石や地熱活動に対する警戒が依然必要です。

5) 北海道駒ヶ岳

（以下略）

（全文を会報第79号に掲載）